

# 平成30年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	20	05	たかつ区健康福祉まつり事業			
26			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			675000		地域ケア推進担当		坂尾	64813	

事業の概要											
<b>事業の概要</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体脂肪、骨密度、血管年齢などの健康測定</li> <li>・健康や権利擁護などの各種相談</li> <li>・各団体の手作り製品の販売やバザー</li> <li>・ダンスや合唱、体操などのイベントの開催</li> </ul>									
<b>実施期間</b>		<b>事業開始年度</b>		<b>事業終了年度</b>		<b>予算中事業</b>		<b>すこやか・支え合いまちづくり事業費</b>			
		平成2年度		—							
<b>地域の課題と現状</b>		少子高齢化や核家族化の進展、住民相互のつながりの希薄化が進む中、健康維持や社会参加を地域ぐるみで考える必要がある。									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額		
	財源 内訳	事業費									
		国庫支出金	1,060	980							
	市債										
	その他特財										
	一般財源	1,060	980								

計画 (Plan)	
<b>事業の目的</b>	高齢者や子ども、障害者を含む多くの区民や団体が交流を深め、健康や福祉を共に考え、見守り支え合いの地域づくりを推進する。
<b>今年度の事業の取組内容</b>	7月7日てくのかわさきにおいて、第29回たかつ区健康福祉まつりを開催する。

実施結果 (Do)											
<b>上記取組内容に対する達成度</b>		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った								
<b>取組内容の実績等</b>		7月7日たかつ区健康福祉まつりを開催し、参加団体の活動の紹介、福祉施設自主製品の販売、健康相談や体脂肪計の測定、育児相談などの各種催し物を行い、1,500人が来場した。									
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位	
	1	成果指標	たかつ健康福祉まつりの開催(来場者数)			目標	1,500				人
						実績	1,500				
	2					目標					
						実績					
	3					目標					
実績											
4					目標						
					実績						

評価 (Check)			
<b>事業を取り巻く社会環境の変化</b>		団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、自助互助の促進がますます求められる。	
<b>事業の見直し・改善内容</b>		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
<b>必要性</b>	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、自助互助の促進がますます求められる。	
<b>有効性</b>	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	1,500人もの人が来場し、高齢者や子ども、障害者を含む多くの区民や団体が交流を深め、健康や福祉を共に考える場を設けることで、見守り支え合いの地域づくりを推進することが出来た。	
<b>効率性</b>	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	高齢者や子ども、障害者を含む多くの区民や団体が交流を深め、健康や福祉を共に考える場を設けるためには、市内で健康福祉に関する活動をしている市民で構成される実行委員会への委託が適当だと考えている。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
少子・高齢化の進展により、地域社会における市民の助け合いの重要性が高まっていくため、引き続き実行委員会及び参加団体が構成される企画部会での検討を重ね、協働によって健康や福祉を共に考える場の提供・参加団体間の交流のさらなる充実を目指していく。		

# 平成30年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	20	10	高津区地域包括支援ネットワーク推進事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			675000		地域ケア推進担当/地域支援担当		坂尾/矢島	64813/64836	

事業の概要									
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民の在宅医療の理解を深めるため、シンポジウムを開催する。</li> <li>・高津区高齢者見守りネットワーク事業の交流会・講演会の開催やリーフレットの作成、高齢者見守り活動事例集の作成などを通じて、見守り・支え合いの意識を高め、見守り活動の立上げの支援を行う。</li> <li>・分譲マンションでの良好なコミュニティの形成のため、課題に応じたつながりづくりの活動の支援、講演会・交流会の開催を行う。</li> </ul>							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		すこやか・支え合いまちづくり事業費			
		平成26年度	—						
地域の課題と現状		<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的なケアが必要な在宅の要介護高齢者が増加するため、在宅医療の普及啓発が必要である。</li> <li>・支援が必要な高齢者などが地域のコミュニティ意識の低下により孤立しがちなため、地域社会全体で見守る体制が必要である。</li> </ul>							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
財源内訳	事業費	2,329	1,640						
	国庫支出金								
	市債								
	その他特材 一般財源	2,329	1,640						

計画 (Plan)	
事業の目的	住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、在宅医療の普及啓発や見守り・支え合いの地域づくりを進める
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民が在宅医療の理解を深めることができるよう、シンポジウムを開催する。</li> <li>・高齢者見守りネットワーク事業の協力団体、協力事業所を対象とした交流会と区民も含めた学習会を開催する。</li> <li>・分譲マンションを対象に課題に応じたつながりづくりの活動の支援を行うほか、講演会・交流会の開催を行う。</li> </ul>

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月1日在宅医療シンポジウムを開催し、108名が参加した。</li> <li>・4箇所に分譲マンションでアンケート調査を実施し、結果報告のワークショップを開催し、1月19日マンションコミュニティ講演会・交流会を開催した(参加者:25名)。これらの取組をまとめて報告書を作成し、区内すべての分譲マンションに郵送した。</li> <li>・自助・互助の促進の情報冊子を2,000部作製した。</li> <li>・地域のみまもりに関する講演会を実施し、70名の参加があった。</li> </ul>								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位		
	1 成果指標	在宅医療シンポジウムの開催(参加者)	目標	80					人	
			実績	108						
	2 成果指標	高津区高齢者見守りネットワーク事業交流会・学習会の実施(参加者)	目標	80					人	
			実績	70						
3 活動指標	高津区高齢者見守りネットワーク事業のリーフレット作成	目標	2,000					部		
		実績	2,000							
4 活動指標	マンションにおけるつながりづくり講演会・交流会の開催(実施回数)	目標	1					回		
		実績	1							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		2025年問題の対策として、地域包括ケアシステムの推進は重要な課題であり、地域力を高め、区民、地域の活動団体、行政等が、それぞれの役割の中で、お互いに力を合わせ、地域課題の解決に努める地域社会の醸成が求められている。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>		幅広い自助・互助活動情報が掲載された冊子へのアクセスは自助・互助活動を促進につながりやすいと思われ作成に至る。今後は効果等から掲載内容の見直しを行う。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、自助互助の促進がますます求められる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	在宅医療や見守り・支え合いの地域づくりの普及啓発を通じて、自助互助を促進することが出来た。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	現在の事業執行体制が適当であると考えている。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
<b>実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性</b> 在宅医療や地域の見守りについては、理解が広まるように内容を工夫しながら、引き続きシンポジウムや学習会の開催、活動の紹介を行う。区内分譲マンションにおいて、住民間や地域との「つながりづくり」の取組を支援するとともに、講演会等を通じて好事例を区内へ発信することなどにより、地域における良好なコミュニティの形成を推進する。		

# 平成30年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	20	15	健やか地域推進事業			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			675000		地域支援担当		今井	64832	

事業の概要											
<b>事業の概要</b>		有酸素運動、筋力トレーニング、柔軟体操の要素が組み込まれている「高津公園体操」を地域に普及することで介護予防、見守り体制を推進する。									
<b>実施期間</b>		事業開始年度 平成19年度		事業終了年度 —		予算中事業		すこやか・支えあいまちづくり事業			
<b>地域の課題と現状</b>		超高齢社会の中で、市民が主体的に健康づくりや介護予防に取り組む体制を作っていく必要がある。また、地域における見守り体制の構築には多くの区民が関心を持っており、住民同士の関係が希薄化する中で、公園体操を軸に住民同士の連帯を進めていく必要がある。									
予決算 (単位:千円)	財源内訳	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度		
			予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
		事業費	312		294						
		国庫支出金									
		市債									
その他特財	30		16								
一般財源	282		278								

計画 (Plan)	
<b>事業の目的</b>	介護予防に加え「閉じこもり予防」「見守り活動」も含めた各地域のコミュニティの活性化を目指す。
<b>今年度の事業の取組内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①普及啓発のための体験会・すでに参加している区民へのフォローアップ研修を合同で開催(年1回)、ガイドマップの作製</li> <li>②公園体操立ち上げのための研修会の実施</li> <li>③グループリーダー交流会の実施(年1回)</li> <li>④CD/カセット・DVDの委託販売</li> <li>⑤保健師によるグループ支援</li> <li>⑥グループ交流会の実施</li> </ul>

実施結果 (Do)									
<b>上記取組内容に対する達成度</b>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">1. 目標を大きく上回って達成</li> <li style="width: 50%;">4. 目標を下回った</li> <li style="width: 50%;">2. 目標を上回って達成</li> <li style="width: 50%;">5. 目標を大きく下回った</li> <li style="width: 50%;">3. ほぼ目標どおり</li> </ul>							
<b>取組内容の実績等</b>	①普及啓発のための体験会・既に参加している区民へのフォローアップ研修を合同で開催(7/31実施 42名参加)、ガイドマップを高齢者の居場所等も併せて掲載している複合的な冊子へと充実を図った。②公園体操グループリーダー交流会の実施(2/5実施、19団体25人参加)③カセット・CD・DVDの販売④保健師によるグループ支援⑤グループ交流会の実施								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標		H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位	
	1	活動指標	公園体操の活動数	目標	38				グループ
			実績	39					
	2	活動指標	体験会・フォローアップ研修の実施	目標	1				回
				実績	1				
3	活動指標	ガイドマップの作製	目標	3,000				部	
			実績	3,000					
4	活動指標	グループリーダー交流会の実施	目標	1				回	
			実績	1					

評価 (Check)			
<b>事業を取り巻く社会環境の変化</b>	超高齢社会で介護予防や地域での見守りの対策が求められている。		
<b>事業の見直し・改善内容</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	ガイドマップを公園体操だけでなく、高齢者の居場所などが掲載された複合的な情報を得ることができる冊子に拡張した。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	住み慣れた地域で誰でも気軽に行ける運動と交流の場が時代変化とともに求められ、今後も推進していく必要がある。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	公園だけでなく、地域の健康づくりグループや有料老人ホームなど実施場所が広がっている。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	今年度同様の事業を実施していく。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
少子高齢化の中で、健康づくりだけでなく身近にある多世代の住民の居場所としての価値はさらに高まっていく。引き続き公園体操の活動を充実させていく。		

# 平成30年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	20	25	高津区こころのバリアフリー推進事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			675250		高齢・障害課		藤野	64648	

事業の概要									
事業の概要		障害者及び障害者施設等と地域のコミュニティが交流・連携する機会を持ち、交流を通じて障害に関する理解が深まることを目的とした障害者施設の活動紹介や地域のイベントに障害者もスタッフとして参加すること等を通して、障害に対するこころのバリアフリーを促進する。							
実施期間		事業開始年度 平成28年度		事業終了年度 —		予算中事業		すこやか・支え合いまちづくり事業費	
地域の課題と現状		障害者及び障害者施設等と地域住民の交流が深まり、障害に関する関心と理解が高まる事で区民活動の幅がより広がるほか、災害時等の緊急対応が円滑に進むことが期待される。日常の地域交流支援には区内各種団体・町内会・社会福祉協議会・障害者支援関連機関と行政が継続的に協働する必要がある。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	514	251						
	財源内訳	国庫支出金							
	市債								
	その他特財								
	一般財源	514	251						

計画 (Plan)	
事業の目的	障害者や障害者施設と区民が相互交流を通じて理解を深め、地域コミュニティの交流・連携を図る。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区役所1階を活用したふくシティかつの毎月1回以上の定期開催</li> <li>・障害者もスタッフとして区民祭や健康福祉祭り等への参加</li> <li>・一般市民向けに障害について理解を深めることを目的としたシンポジウムの開催</li> </ul>

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		<b>3</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">1. 目標を大きく上回って達成</li> <li style="width: 50%;">4. 目標を下回った</li> <li style="width: 50%;">2. 目標を上回って達成</li> <li style="width: 50%;">5. 目標を大きく下回った</li> <li style="width: 50%;">3. ほぼ目標どおり</li> </ol>							
取組内容の実績等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふくシティかつに、のべ48施設が参加</li> <li>・当事者が役割を持った地域活動に7名が参加</li> <li>・2月23日に開催したシンポジウムに、一般市民40名が参加。</li> </ul>								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	活動指標	ふくシティかつの開催	目標	22					回
				実績	22					
	2	活動指標	障害者地域交流シンポジウムの開催	目標	1					回
				実績	1					
	3	活動指標	区民祭や健康福祉祭りへの参加	目標	10					人
実績				10						
4	活動指標		目標							
			実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		障害者に対しての社会の関心の高まりと、障害者自身の社会参加への関心の高まりにより、相互交流の機会の提供が求められている。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 29 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		参加事業所を主体とした実行委員会方式に改めた上で、新たに企画運営会議を設け、よりきめ細かく当事者の意見を事業に反映させる体制を構築した。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	<b>a</b>
	評価の理由	障害者の社会参加や施設の地域活動の必要性が高く、事業継続のニーズは高いと考えられる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	<b>a</b>
	評価の理由	ふくシティかつの参加に際して、日常の作業の様子をそのまま持ち込むことで、より市民に理解し易い活動紹介を行ったり、特別支援校の分教室も新たに参加する等、成果が上がっている。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	<b>b</b>
	評価の理由	シンポジウム開催では、昨年までの市政だよりや区HP掲載だけでなく、新たに区内公立校全てに案内を配布することで効率の良い広報効果が大きく、ふくシティ等の広報についても実行委員会での話し合いの上で、手法の見直しを検討する。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
障害に関する市民の関心の高まりに対応する必要があると考えられ、事業の目的や方向性は維持するものの、見直し・改善のうえ継続することが適切であると考えられる。		